

■ 理事長メッセージ

理事長からのメッセージ

日本心臓核医学会理事長 山科 章
東京医科大学 循環器内科 教授

平成 26 年 6 月に石田良雄前理事長のあとを受け、心臓核医学会理事長を拝命し、すでに 1 年余りが経過しました。昨年の本誌の理事長就任のあいさつ文では、①新たなエビデンスの創出と重要な情報の継続的発信、②学術集会および学会誌の充実、特に学会誌の英文化、を大きな目標として掲げ、さらに、学会 HP による各種の役立つ情報の提供、教育セミナーや他学会とのジョイントセミナー、地域別研修会の充実とその継続的な開催、さらには、循環器専門医や核医学専門医が単位取得のための研修や認定にかかわることもあげました。そういった視点でこの 1 年を振り返ってみます。

吉永恵一郎編集委員長、中嶋憲一副理事長はじめ多くの皆様の貢献により、待望の英文誌 *Annals of Nuclear Cardiology* Vol. 1. No.1 が 8 月末に発刊できました。21 編の論文、レター形式の 2 編が掲載されるなど、充実した内容になっております。American Society of Nuclear Cardiology (ASNC) 関係者にも謹呈し、高い評価をいただいたと報告を受けました。PubMed 掲載、数年後 Impact Factor 獲得を目指していますが、2016 年がまさに正念場の年となります。さらなる総説論文、原著論文が必要です。学会関係者の皆様のさらなるご支援、ご協力をお願いします。

学会の国際化として ASNC と公式な連携をもつことができ、2016 年 7 月の第 26 回学術集会（三重大学佐久間肇会長）において、ASNC とのジョイントシ

ンポジウムを開催することになりました。また、JSNC の会員であれば特別価格で ASNC 会員になれるという特典もいただきました。今後は、わが国の心臓核医学が世界をリードしている MIBG、心サルコイドーシス、たこつぼ型心筋などのガイドラインを両学会の雑誌で紹介することを検討しています。

国内他学会との連携も積極的に進めており、日本循環器学会とは継続的に両学術集会においてジョイントシンポジウムを開催することを決定しました。そのほか、日本核医学会、日本心臓病学会、日本心血管インターベンション学会ともジョイントシンポジウムを開催しています。

学術活動では、日本核医学技術学会標準化委員会と共同で心臓核医学の画像標準化を進めており、さらに、核医学データの二次利用に関するデータフォーマットの策定を進めています。標準化、データの共同利用が心臓核医学の発展につながると思います。

あり方委員会では利益相反に関する指針・細則が作成されました。学会発表、論文投稿などにおいて指針に準拠してください。

この 1 年間の活動を振り返ってみました。就任時に掲げた目標で未達成のもの、解決できていない課題もまだ多くあります。また、会員数の増加は喫緊の課題です。心臓核医学会のさらなる発展のため、役員一同協力して努力を重ねます。会員の皆様のさらなるご支援・ご協力をお願い申し上げます。